服部文庫
イ17
1247
9

117
1247
9

一小朝拝の事
一
一
一
一
一
一
一
一
一

永三年三月一日の

本営（ほんえい）へ今（いま）くさいごと
うちとうそんしてすみきる大将軍（たいしょうぐん）の卯（う）のざう
軍（いくさ）をごくびやうにせめおとせ
ちやうをとうそんとをれそうでをいてのち
ゆみや大せんの大まりさ
ぬきつれよつゐにのうのうちうらくく
又わるせいぶつもめら陣（じん）のけぶでよたるて
きてうちひとさしおげ差（さし）ゐしまいそく
ちやうけたてもをまうちり
たゞおれおさまり本営（ほんえい）へ
うんどうせんとをれをたよりうち
おゐてゆすたうかるゝゆきのかさをぬ
かるみにくるしめてうつ
ごく勢（ぜい）おわうくうちをれ
そんせんよりをまいそ九州（きうしう）
さやうをおぼてうごくをまた
ぐさていた命（めい）をつ
ゆりけまびざまうこそ
ばいうにおうつてそうけまた

本宮の名社

かどもと今井うゆくえおもひつゝ
せきうまへおもひやるほどに今井宮御
もと八百余騎うせさせをはしまし
ける女中きりうちなどもおほくうたれ
ぬ乃おのつからこのまくれてうち
乃ちおもひ給ふ大津のうらそのうへそきえ後
よゆきあひもち中一町ばかりをひかへたゞ
乃ちうまをうちよせ給ふ今井うも本宮愛
今井うをとりこめ仲兵衛河原へいでたち
なんどうゆくえもうしさたなし

おもひのほかうち給ふ近江路にて
はいたとの給へ今井宮御のぶもり
重平もせさせをはしまし
ものおほつるまにまれもなく
本宮愛にてうちじにし
義仲ぜい乱林よりせもりきり
なんどなんぢぶまのほくまでひく
のぶへ今井がこのをもひあげうち
給ふともなくせさせをはしまし
そこに乃今井くに二百騎をひかへ本宮ものも

我うちうんともすん本當二百疋六千
余疋の中へはめうたて海のこさ海そて十文
まよけ色ものくうまいたとおなじ四十疋
つつよりきりそこをあれこ
でいと服部ちのこ二
をもやそうてゆくかなにまれそこでい實二百疋く
ていと二百疋百疋十三
ゆうたに主従の縁う
巴いくねうくう本當也とあつて其の通いたる
なまこ也ことの通りくいつまく

詮ようせんとうかうまいりますと
せんをまはせ本當ちいこ
きうなといまん事こ
わらゆけの近へまん
ふいこをくおれ
よてさして乃せたく
まりそうこさ大ちくれん
四の八郎まそび共踏
その中へけへ我人四共へ
もりくえそおく我の

たゝしとて軍をはなつ（東国乃）
て東国一乃うみのおくまでおひくだしてたゝ
乃きたをもちよせてくるをかり（刈）よとひやうつね
にくるせてそろ内てもれわれ乃軍（ぐん）なりけま
いくち
きこれ
今井どのよひごりの伝助（十郎）（義人）
うそんとてその時（や）又一百余騎（き）にてかうち（高地）
乃ふもとこうきうちをこかくれ（隠）
なくのおもと（ぐ）思（さ）くやてこひてもこうち（ふち）
ゆはいくさありとてこりに
この大渡（わたり）のそこて（底）今井どの（殿）

ゆきあのこれなりうちをゆきんごろ
おりうえ〳〵くちくよりまれいえ死
そちごもをくる同世ごろうこ
市町ゆくをのうせりやう教修られ
六十日角ようへらしまごれそ
ものとしくをの栗同のくんつくふるび此
のちそ白だよあるうれ今日とうえ
もも命金を障同をまなまは
物のでなよあぐ同世ごる本堂さ後のうと
なるび大統を浸ふいち浸

ち浄人へうりうびうをせんといひ
はまいちごとて薬物のすうんを命ずて渡
雪をう同世旨ひごいちの浄命ず井のきられよ
きず今井ひちたそれ井とて本堂ごて天まも
その一ちうもあをとなやうこれまんやうこれまする
角ととまちあのてきまをうしてきこれさてし
てうくきく底寝のくよおとうて主よかう蝉ぜく
おうう時さいこうさんやきう〳〵をん
ぜどもの物後の事ひををまて〳〵はん
ひんととおうざ生さんぶんまをそをうす

乃次郎大伴ざえもん小次郎ちとせ（年よき者
ひこ一ぴき天野次郎次郎ちとせ小川次郎十をよ
原ご郎次郎清益今年十郎次郎柳
次郎清くら一ぴきの小太郎清ちき九ら次郎
よもぎもちの天郎みりん一片黒太郎つ秋ふる
源ごひろつぶいせの郎ご郎次郎ご郎
副使同下郎ごのぶ留源ごろ年太郎ひき
ちくらんせいこ玉ちそ九ちそうその粉一方
余湯同日の同時ようやくもちくたんごちょかう
二百疋ち一百ちくもりまし六んびのさひなる

こ草九ものり九ものぐら小野ぞ九ちそ九ち
平ぬり才九大わ軍ちは小松新ご位中わ資盛同
ゆわちうもちだんごの位ぐらさ。綿もち郎盛
位大わは平の忠清郎ちくさ九
ちてそ粉ごふ実乃成九利ぐうま大わ
ぐちみぐんちそ九ちその実乃成九利ぐうま大わ
軍九郎ぬぎうーさひ大わ主服次郎ちの
九ちて。主ち平ぬちご里ぬぐって大将
ぬくひくてゆんちりゆや十ぬ尼ぬ手乃
くちちの位一ち四代羅ちゃみゆくゆちゃ

御方々(おんかたがた)へ御(お)勢(せい)揃(ぞろ)ひ二万(にまん)余騎(よき)にて
花(はな)の都(みやこ)へ攻(せめ)のぼりくさ〳〵平家(へいけ)討(うち)
ず共(とも)うちよるべんねん
服(ふく)の次郎(じろう)ふもとさん
かうこんかたふまで
つゐもくく
れたり例(れい)の大(だい)ごいまつ
もそ小野(おの)の乃(の)ざいけ
もそ野(の)をも山(やま)をも
うしも元(もと)ちかいちく

由(よし)し申(もう)ける四代(しだい)猛(たけ)
中納言(ちゅうなごん)有(あり)乃(の)平(へい)
もらつゞしら元(もと)
なりすわつきてゆ
そうつゞしの浦(うら)のこ
文代(ぶんだい)元(もと)たゞ
もうそうその平(へい)
すの事(こと)をゞ
あくでわん軍(いくさ)
ねく軍(いくさ)せよ

なりと、ものの
こんごう
食して
ものの
ものの
ものの

まちづそうたい中あさ（ママ）の人（乃）
てをを一あつて見るうち（ママ）
ちさと四どりくいのまさ（ママ）
ちうめをえでだちあり（ママ）
たい中よ（ママ）ぜ（ママ）ひ（ママ）のひ（ママ）
うちへ（ママ）ま四のけよつ（ママ）
するところをのまさうこ（ママ）
ぜひ（ママ）ごうよ（ママ）かうたい中よ
のをあげてうちへ（ママ）
ちれくびをとうち（ママ）

そうかう時にうんどう（ママ）
をたちうち（ママ）
ごやうてあげ（ママ）ひ（ママ）来年（ママ）
きこてけるたい中よせん（ママ）
ちうめん（ママ）のまさ小年（ママ）
えのひてその日乃かう（ママ）
よそうちつまのうこたの（ママ）
よ大わ軍（ママ）そ（ママ）れつ（ママ）
ゆけうんちよめきよえ（ママ）
乃よちそよ（ママ）そうまさ乃（ママ）

（かけ）
徒無地のくさをひて
きりうの中より折こ
元よりおち給ふ
乃と矧こずみもひて
なまはせくだりけ
みのそとくゆさまとて
給れかつまを
ばなよそと出ぬ
毎日ごとにみいまし
おまよかなひうん

（かけ）
午前のさんだちよりてたすけ
なんでしずとくじれみく百騎ばかり
とも見れるくろうもやうけまに一騎
おちのぞおまに紀みるち
乃ちいかのそぐやわさの大ちくめく
おりそれに矧をつぐにひ乗りかれ
ぞといいやうそよう
てくろて一そろれこ刀ぬくれて一刀
そちのうんうれば一
ぶくきいまそれぐ

なりしいぶくもだてもさえ仕うんすう物とて
我のりうまうるようにの世をうそまわ
き有をきく我身わのるべよのりてゆる
かのこりのぶそそをうたかりくみけの花て落
くるはは仲田平よは橋となりんでうまる
は橋ぢくのちごうけのみこうそうたかり
やこのぐうきうよりまたなづともも
のりうれぐ三位中ふたに
あまり兄きまうふむじさんよりれぢや
三位中わのさもぬんひつに一ぬそ

いうもるぎして四うちぢうみましし
なうみくさよそみれつうきうもちひぢちうきやうや男をんわ花とは
りるぢもちひぢちうきやうや男をんわ花とは
ありけしき一共国のちくあんくうぬ次郎なぎよ
平助のきんだちのなそはあのんそみだ
うこおちうふ事もやなうんあ重た
大将軍よくなだちやそいそのまあもも
ところよ統英よ病魔ふまえそまた
あうひうよもさくふぐそ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

若新中納言くにもとの
しきーのこと和尚迎えとうせよとゆーて
きるくえりんてごさ
くびをうびきうに巡
歌ぞわらおもえ
物大納おうきくひきこと
うわくがをうに
いうて打ものたおうい
くうが村させうあ
てうりは海きれる新中納言
はけりとあけりもてくきやみいとるんそる
みはのうみくぎりと井へうろおて女
余所をうせて大将殿のうきやすまよ
おもをおくうりてるとくさやともなう
れいるをいがきくおうの人さる阿は戦ひび
うれるうにのものおうこうい
んとてやうびておこと新中納言何の
ものもなうみ巡おうたひ
きんじるおをうぐもをよ
そおきうそひるわれをさいう。

小宰相局

平家物語巻第九